

CONTENTS

第5版の推薦のこゝば 吉田 修	v
第5版の序	vii
第1版の序	viii
本マニュアル使用前に	ix
グリーンページ (♣) 目次	xx

(* : 新規項目)

1章 臨床医に求められるもの

1 臨床医に求められるもの	2	6 診療ガイドライン総論	30
2 生物・心理・社会 (bio-psycho-social) モデルに基づく国際生活機能分類 (ICF)	5	7 診療ガイドライン各論	33
3 健康と心理・社会的因子	10	8 マネジメントの基礎知識	35
4 患者とのコミュニケーション	16	9 患者の悲しみや苦悩を理解するために	39
5 根拠に基づく医療実践 (EBM)	24	10 インフォームドコンセント	42
		11 患者会・障害者団体・家族会など	52

2章 安全な医療のために

1 メディカルリスクマネジメント (医療事故防止のために)	60	2 院内感染対策	65
		3 職業的感染予防のために	76

3章 高齢者・要介護者のケア

1 老年症候群	84	7 要介護者の療養場所と社会資源	106
2 高齢者総合機能評価 (CGA)*	84	8 脳性麻痺キャリアオーバー*	113
3 高齢者・要介護者へのリハビリテーション (廃用症候群とその予防)	88	9 介護保険制度	118
4 誤嚥と嚥下障害	93	10 成年後見人制度*	128
5 高齢者の栄養管理	97	11 在宅ケア (訪問診療・往診)	130
6 要介護者の排泄管理	102	12 終末期ケア*	132

4章 社会・環境問題への対応

1 アスベスト (石綿) 関連疾患	136	3 喫煙・禁煙	150
2 塵肺	144	4 アルコール依存症	155

5 ドメスティック・バイオレンス (DV).....167	7 ホームレス患者への対応の実際.....177
6 化学物質過敏症 (シックハウス症候群など).....171	

5章 救急医療

1 救急救命処置の診断と流れ.....182	7 熱中症.....242
2 心肺蘇生.....184	8 偶発性低体温症.....245
3 ショック.....191	9 軽症患者への対応.....248
4 多発外傷.....222	10 急性上気道狭窄/閉塞.....249
5 急性中毒.....225	11 災害時の対応*.....251
6 横紋筋融解症・挫滅症候群 (クラッシュ症候群).....239	

6章 オンコロジー*

1 クリニカルオンコロジー① (疫学～予後予測)*.....260	5 クリニカルオンコロジー⑤ (栄養療法)*.....285
2 クリニカルオンコロジー② (放射線療法)*.....275	6 原発不明癌*.....293
3 クリニカルオンコロジー③ (免疫療法)*.....278	7 オンコロジーエマーゼンシー*.....297
4 クリニカルオンコロジー④ (リハビリテーション)*.....280	8 緩和ケア.....305

7章 多臓器系統にまたがる症候*

1 発熱*.....330	11 歩行障害.....391
2 食欲不振*.....332	12 感覚障害.....394
3 浮腫*.....335	13 胸痛*.....406
4 リンパ節腫大*.....336	14 動悸*.....408
5 意識障害.....342	15 呼吸困難*.....410
6 失神.....349	16 嘔気嘔吐.....414
7 睡眠障害*.....357	17 腹痛.....418
8 頭痛.....365	18 黄疸*.....423
9 めまい.....375	19 腰背部痛*.....427
10 痙攣.....380	20 関節痛*.....428

8章 感染症

1 不明熱	432	8 ニューモシスチス肺炎	474
2 敗血症	434	9 サイトメガロウイルス感染症	477
3 インフルエンザ	440	10 カテーテル関連血流感染症	479
4 細菌学的検査（塗抹検査，培養検査）	444	11 AIDS（HIV 感染症）	482
5 発熱性好中球減少症	454	12 STD/STI（性行為感染症）	497
6 日和見感染症（概論）*	459	13 届け出が必要な感染症・輸入感染症	503
7 深在性真菌症	462	14 新型コロナウイルス感染症*	530

9章 呼吸器疾患

1 呼吸不全	538	14 慢性閉塞性肺疾患	642
2 急性呼吸促進症候群（ARDS）	544	15 びまん性汎細気管支炎	653
3 人工呼吸器管理	549	16 気管支拡張症	656
4 在宅酸素療法	563	17 好酸球性肺炎	661
5 胸水・胸膜炎	568	18 肺真菌症*	664
6 気胸	577	19 過敏性肺炎	674
7 咯血・血痰	579	20 特発性間質性肺炎	680
8 気管支炎・肺炎	582	21 膠原病肺*	689
9 肺抗酸菌感染症（肺結核・非結核性 抗酸菌症）	599	22 薬剤性肺障害	696
10 過換気症候群	611	23 縦隔病変	702
11 睡眠時無呼吸症候群	612	24 肺癌	707
12 遷延性咳嗽・慢性咳嗽	620	25 胸膜腫瘍*	728
13 気管支喘息	629	26 肺動静脈瘻*	733
		27 サルコイドーシス*	735

10章 循環器疾患

1 高血圧症	744	9 感染性心内膜炎	874
2 心不全	784	10 肥大型心筋症	879
3 不整脈	807	11 拡張型心筋症	883
4 虚血性心疾患	838	12 特定心筋症	886
5 心タンポナーデ	857	13 大動脈瘤	890
6 弁膜症	859	14 大動脈解離	895
7 心筋炎	869	15 肺血栓塞栓症	900
8 心膜炎	872	16 動脈硬化	903

17 閉塞性動脈硬化症	909	20 表在性血栓性静脈炎	916
18 下肢静脈瘤	912	21 リンパ浮腫	916
19 深部静脈血栓症	914		

11章 消化器疾患

1 急性腹症	920	25 肝障害	1065
2 下痢	924	26 急性肝炎	1076
3 便秘	930	27 急性肝不全	1084
4 腸閉塞（イレウス）	934	28 B型慢性肝炎	1097
5 吐血・下血	939	29 C型慢性肝炎	1107
6 胃食道逆流症	944	30 薬物性肝障害	1122
7 マロリーワイス症候群*	947	31 アルコール性肝障害	1128
8 食道・胃静脈瘤	949	32 NAFLD（非アルコール性脂肪性 肝疾患/NAFL+NASH）	1135
9 食道癌	955	33 自己免疫性肝疾患	1145
10 消化性潰瘍	961	34 肝硬変	1166
11 機能性ディスペプシア	968	35 原発性肝癌（肝細胞癌，肝内胆管癌）	1191
12 胃癌	971	36 肝膿瘍	1224
13 NSAID 起因性胃腸障害*	975	37 IgG4 関連疾患*	1228
14 過敏性腸症候群	979	38 胆石症	1231
15 急性虫垂炎	987	39 急性胆管炎*	1235
16 ヘルニア	989	40 胆嚢ポリープ（胆嚢隆起性病変）	1239
17 感染性腸炎*	990	41 胆嚢癌	1241
18 虚血性腸炎*	999	42 胆管癌・乳頭部癌	1243
19 炎症性腸疾患	1006	43 急性膵炎	1251
20 大腸憩室疾患*	1037	44 慢性膵炎*	1256
21 大腸ポリープ	1040	45 膵嚢胞性腫瘍（IPMN/MCN）*	1260
22 大腸癌	1042	46 膵臓癌	1262
23 人工肛門患者のマネジメント	1047		
24 痔	1054		

12章 腎疾患・電解質異常

1 尿検査異常（血尿・蛋白尿）と腎機能の 評価	1268	4 原発性糸球体疾患	1280
2 尿量異常	1272	5 ネフローゼ症候群	1290
3 急性腎不全/AKI	1274	6 二次性糸球体疾患	1293
		7 CKD（慢性腎臓病）	1296

8 血液浄化療法	1301	11 カリウム代謝異常	1312
9 酸塩基平衡異常	1306	12 カルシウム代謝異常	1317
10 ナトリウム代謝異常	1309	13 リン代謝異常	1319

13章 代謝・内分泌疾患

1 糖尿病	1324	8 高尿酸血症・痛風	1361
2 糖尿病細小血管障害	1342	9 メタボリックシンドローム	1365
3 糖尿病性壊疽	1347	10 甲状腺機能亢進症	1369
4 糖尿病性昏睡	1350	11 甲状腺機能低下症	1374
5 低血糖	1351	12 甲状腺腫	1376
6 肥満症	1353	13 急性副腎不全症	1379
7 脂質異常症	1355	14 下垂体疾患	1380

14章 神経・筋疾患

1 神経・筋疾患の診療	1388	16 ラインゾーム病	1447
2 髄膜炎	1390	17 副腎白質ジストロフィー	1449
3 単純ヘルペス脳炎	1404	18 ハンチントン病, 有棘赤血球を伴う 舞蹈病 (有棘赤血球舞蹈病, McLeod 症候群)	1450
4 ヒトT細胞白血病ウイルス-I 関連 脊髄症	1405	19 脊髄空洞症	1452
5 亜急性硬化性全脳炎	1406	20 スモン	1454
6 プリオン病	1407	21 もやもや病, Willis 動脈輪閉塞症	1455
7 パーキンソン病および パーキンソニズムを生じる疾患	1409	22 ミトコンドリア病	1456
8 脊髄小脳変性疾患	1423	23 ビタミン B ₁ 欠乏症, ビタミン B ₁₂ 欠乏症	1458
9 筋萎縮性側索硬化症	1425	24 後縦靭帯骨化症, 黄色靭帯骨化症, 広汎性脊柱管狭窄	1460
10 ギラン・バレー症候群, 慢性炎症性 脱髄性多発根ニューロパチー, 多巣性運動 ニューロパチー, フィッシャー症候群	1427	25 ウィルソン病	1461
11 Bell 麻痺	1432	26 多発ニューロパチー	1463
12 多発性硬化症, 視神経脊髄炎	1433	27 頭部外傷	1465
13 筋ジストロフィー	1437	28 脳血管障害	1474
14 周期性四肢麻痺	1442	29 原発性脳腫瘍*	1502
15 重症筋無力症 (成人)	1443	30 転移性脳腫瘍*	1509

15章 血液疾患

1 血液病学総論	1516	13 悪性リンパ腫	1583
2 鉄欠乏性貧血	1522	14 成人T細胞性白血病・リンパ腫*	1595
3 溶血性貧血	1525	15 多発性骨髄腫	1599
4 巨赤芽球性貧血	1532	16 特発性血小板減少性紫斑病	1605
5 二次性貧血	1533	17 血栓性血小板減少性紫斑病	1610
6 赤芽球癆	1536	18 抗リン脂質抗体症候群	1612
7 再生不良性貧血	1538	19 血球貪食症候群	1615
8 急性白血病	1545	20 サイトカイン (G-CSF) の使用法	1617
9 骨髄異形成症候群	1562	21 血液腫瘍における制吐剤*	1619
10 骨髄線維症*	1571	22 播種性血管内凝固症候群	1623
11 慢性骨髄性白血病	1575	23 骨髄バンク認定施設について	1626
12 慢性リンパ性白血病	1580		

16章 膠原病とその類縁疾患

1 膠原病総論	1630	7 シェーグレン症候群	1669
2 関節リウマチ	1637	8 結節性動脈周囲炎	1673
3 全身性エリテマトーデス	1649	9 MPO-ANCA 関連血管炎, 顕微鏡的多発血管炎 (顕微鏡的 PN)	1678
4 全身性強皮症	1660	10 ベーチェット病	1682
5 混合性結合組織病	1663	11 リウマチ性多発筋痛症	1686
6 多発性筋炎皮膚筋炎	1666		

17章 精神・心療内科疾患

1 睡眠障害	1690	8 パニック障害	1729
2 せん妄	1697	9 身体表現性障害	1733
3 認知症	1701	10 統合失調症	1737
4 うつ状態・うつ病	1709	11 症状・器質精神病 (薬剤反応性を含む)	1743
5 アルコール依存・離脱症状	1714	12 発達障害*	1747
6 自殺企図	1719	13 摂食障害*	1752
7 心身症	1721	14 薬物依存症 (アルコールを除く)*	1758

18章 運動器疾患

1 骨折・脱臼	1764	2 大腿骨頸部/転子部骨折	1772
---------	------	---------------	------

3 頸椎疾患	1779	8 股関節疾患	1803
4 肩関節疾患	1784	9 膝関節疾患	1809
5 肘関節疾患	1787	10 足関節・足部疾患	1814
6 手部疾患	1789	11 骨粗鬆症	1817
7 腰椎疾患	1792	12 ロコモティブ・シンドローム*	1822

19章 小児疾患

1 小児診療の心得	1828	25 手足口病	1872
2 発熱	1830	26 伝染性単核症	1873
3 熱性痙攣	1832	27 溶連菌感染症	1875
4 呼吸困難*	1836	28 髄膜炎	1876
5 脱水	1837	29 急性脳炎・急性脳症*	1879
6 下痢	1839	30 てんかん	1884
7 嘔吐	1842	31 インフルエンザ*	1887
8 腹痛	1845	32 蟻虫症・アタマジラミ	1890
9 腸重積症	1846	33 よくみられる感染症の登園・登校の 基準	1891
10 異物誤飲	1850	34 気管支喘息	1892
11 咳と喘鳴	1853	35 アトピー性皮膚炎	1899
12 かぜ症候群	1854	36 食物アレルギー*	1904
13 扁桃炎	1856	37 学校心臓検診異常所見者の扱い	1912
14 クループ症候群・急性喉頭蓋炎	1856	38 川崎病	1919
15 百日咳	1857	39 学校検尿異常所見者の扱い	1921
16 急性細気管支炎（RS ウイルス含む）	1859	40 尿路感染症	1924
17 肺炎	1860	41 急性腎炎症候群	1925
18 麻疹	1864	42 ネフローゼ症候群	1927
19 風疹	1865	43 アレルギー性紫斑病*	1929
20 水痘	1866	44 起立性調節障害	1930
21 流行性耳下腺炎	1867	45 児童虐待	1932
22 伝染性紅斑	1869	46 小児の心身症	1937
23 アデノウイルス感染症	1869	47 予防接種	1939
24 突発性発疹	1871		

20章 女性疾患

1 女性科診療の心得	1946	3 不正出血	1950
2 女性科領域の急性腹症	1948	4 無月経（原発性・続発性）	1951

5 更年期障害	1956	13 受胎調節と避妊指導	1982
6 性器の感染症：帯下・陰部瘙癢感	1959	14 妊娠中の患者への生活指導	1984
7 月経困難症と子宮内膜症	1961	15 流産・早産（切迫症状を含む）	1987
8 子宮筋腫	1965	16 妊娠高血圧症候群	1990
9 子宮頸癌と子宮体癌	1969	17 乳腺炎	1992
10 卵巣腫瘍と卵巣癌	1973	18 乳癌	1993
11 性器脱（子宮脱・膀胱脱・直腸瘤）	1979		
12 尿失禁（腹圧性・切迫性・溢流性・混合性）	1980		

21章 泌尿器疾患

1 排尿障害	2004	6 尿路感染症	2017
2 尿閉	2005	7 泌尿器系の癌	2020
3 前立腺肥大症	2006	8 亀頭包皮灸・嵌頓包茎・精巣（睾丸）捻転症	2029
4 神経因性膀胱/ 神経因性下部尿路機能障害	2011	9 勃起不全	2032
5 尿路結石症	2014		

22章 眼疾患

1 眼の見方	2036	7 緑内障	2057
2 眼科救急	2038	8 白内障	2060
3 結膜充血*	2043	9 網膜・ぶどう膜疾患	2061
4 視野障害*	2044	10 全身疾患と眼	2067
5 屈折・調節異常	2048	11 糖尿病網膜症	2068
6 前眼部疾患（感染性結膜炎ほか）	2052	12 その他の眼疾患	2073

23章 耳鼻咽喉疾患

1 鼻出血	2078	8 アデノイド	2093
2 耳痛	2080	9 顔面神経麻痺	2094
3 急性の難聴	2083	10 Bell 麻痺	2097
4 異物症	2085	11 急性喉頭蓋炎	2099
5 鼻アレルギー	2088	12 嚔声*	2100
6 急性鼻副鼻腔炎	2091	13 急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍 （扁桃周囲炎）*	2102
7 慢性鼻副鼻腔炎	2092		

24章 皮膚・軟部組織疾患

1 臨床皮膚科の原則	2106	9 小動物による皮膚疾患	2125
2 いわゆる湿疹について	2109	10 皮膚付属器疾患	2127
3 紅斑および紫斑をきたす疾患	2114	11 皮膚腫瘍	2130
4 蕁麻疹とその類縁疾患	2116	12 熱の出る皮膚疾患	2131
5 水疱および膿疱をきたす疾患	2118	13 体表創傷、感染症	2132
6 細菌による皮膚疾患	2119	14 熱傷	2148
7 真菌による皮膚疾患	2121	15 難治性皮膚潰瘍（褥瘡管理ほか）	2155
8 ウイルスによる皮膚疾患	2123		

25章 薬物使用法

1 輸液剤の選択と投与方法	2168	9 小児の薬用量	2207
2 高カロリー輸液の実際	2169	10 妊娠中の薬	2212
3 カテコラミンの使用法	2171	11 授乳中の薬	2221
4 抗菌薬	2173	12 薬物血中濃度	2226
5 輸血と血液製剤	2188	13 副作用・薬剤相互作用	2228
6 抗凝固療法（経口薬）	2194	14 薬疹	2242
7 ステロイドの使い方	2202	15 配合禁忌	2248
8 ステロイド外用薬の原則	2204		

26章 検査

1 心エコー	2252	3 冠動脈造影読影のポイント	2276
2 腹部エコー	2262		

27章 資料

1 肺区域	2284	3 関節可動域（ROM）抜粋	2298
2 肝区域	2294		

索引

事項索引（和文）	2302	薬剤索引	2353
事項索引（欧文）	2338		

GP ♠ グリーンページ目次

1章 臨床医に求められるもの

- | | | |
|--|--|--|
| <p>14 ・なぜ生物学的側面の医学研究が心理・社会科学的側面より先に発展したのか</p> <p>・なぜ心理・社会的因子が健康に影響するのか</p> <p>・地域居住高齢者の機能低下の危険因子：系統的文献レビュー</p> | <p>24 ・心理的防衛機制</p> <p>・直面化、解釈</p> <p>・社会的支援ネットワーク</p> | <p>に臨む医療者の望ましい態度</p> <p>・病名告知後のサポートシステム</p> <p>・“I can cope program”とは</p> |
| <p>15 ・死亡率を高める危険因子としての介護</p> <p>・地域居住高齢者における社会的孤立と認知機能低下</p> <p>・介入不可能な心理・社会的因子の情報は不要か</p> | <p>27 ・UpToDate</p> <p>・DynaMed</p> <p>28 ・Cochrane Library</p> <p>・Best Evidence</p> <p>・Clinical Evidence</p> | <p>48 ・癌の病名告知に関する患者の意識</p> <p>・癌の病名告知の現状</p> <p>・病名告知後のサポートが重要な根拠</p> |
| <p>22 ・患者の大病院志向と医師-患者関係の力</p> <p>・患者-医療チーム関係</p> <p>・自分の診察スタイルを見直す法</p> <p>・医療面接と問診の相違と体系化の歴史</p> | <p>32 ・IOMによる2つの診療ガイドライン新基準</p> <p>40 ・キューブラー・ロス『人生は廻る輪のように』</p> <p>41 ・脳卒中患者の障害の受容(克服)過程</p> <p>・結果</p> <p>・障害の受容(克服)過程</p> | <p>49 ・告知の意味するもの</p> <p>50 ・手術の説明をする時期は慎重に決定する</p> <p>・化学療法のインフォームドコンセントで注意したいこと</p> |
| <p>23 ・解釈モデル、受療行動、LEARNのモデル</p> <p>・行動変容と患者教育</p> | <p>44 ・インフォームドコンセントの歴史</p> <p>46 ・家族告知</p> <p>47 ・インフォームドコンセント</p> | <p>51 ・説明を尽くすことがもたらすもの</p> <p>・患者が自分自身の真実について知らないと取り組めない医療</p> <p>52 ・難病情報センター</p> |

2章 安全な医療のために

- | | | |
|--|---|--|
| <p>66 ・手指消毒と流水と石鹸による手洗いの違い</p> <p>・手指衛生を行うべき状況</p> | <p>・眼の粘膜保護における眼鏡の効用</p> <p>・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)</p> | <p>72 ・消毒薬の化学的分類</p> <p>・消毒薬の商品名</p> <p>・消毒薬の効力に及ぼす有機物の影響</p> |
| <p>67 ・流水と石鹸による手洗いを実施するべき状況</p> <p>・手指衛生のガイドラインの遵守率</p> <p>・手袋の使用方法</p> <p>・マスクの種類</p> <p>・咳のエチケット</p> | <p>68 ・緑膿菌</p> <p>・滅菌と消毒とは</p> <p>71 ・微生物の消毒薬抵抗性</p> <p>・消毒薬の水準によるグループ分け</p> <p>・消毒薬の作用機序</p> | <p>・消毒薬の材質への影響</p> <p>・消毒薬各論</p> <p>81 ・ATL(成人性T細胞性白血病)と血液曝露事故</p> <p>・梅毒と血液曝露事故</p> <p>・HIV曝露後の予防内服</p> |

3章 高齢者・要介護者のケア

- | | | | |
|-----|------------------------|--------------------|-------------------|
| 86 | ・Advanced ADL | ・長期療養施設とは何か | ・アテトーゼと頸椎症 |
| 88 | ・廃用症候群の概念 | ・療養病床 | 116 |
| | ・廃用症候群の臨床的意義 | 107 | ・呼吸と筋緊張 |
| 95 | ・Wallenberg 症候群 | ・介護老人保健施設(老健) | ・脳性麻痺のてんかんの特徴 |
| 96 | ・脳血管障害における嚥下障害での摂食の進め方 | ・特別養護老人ホーム(特養、特老) | ・PVLと視覚認知障害 |
| 101 | ・除脂肪体重と窒素死の概念 | 108 | 117 |
| 102 | ・NST とは | ・主な居宅サービス | 125 |
| 103 | ・排尿チェック | 109 | ・ケアマネジメント |
| | ・排尿援助に使う用具・トイレの知識 | ・身体障害者手帳 | 126 |
| 106 | ・死亡した人の約半数は半年前から要介護状態 | 112 | ・地域包括支援センター |
| | | ・障害年金の等級表 | ・地域密着型サービス |
| | | 113 | ・地域包括ケアシステム |
| | | ・脳性麻痺の定義 | 133 |
| | | 114 | ・Ageism(エイジズム)の問題 |
| | | ・乳幼児期からの筋緊張異常と陰性体験 | |
| | | 115 | |
| | | ・尖足の問題 | |
| | | ・側彎の進行 | |

4章 社会・環境問題への対応

- | | | | | |
|-----|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------------|
| 145 | ・塵肺のXp 所見 | 165 | ・ノン・アルコール飲料の使用について | ・CRAFT |
| 163 | ・アルコール依存症は慢性進行性致死性の疾患 | ・アルコール依存症の3 類型と治療メニュー | 172 | ・「底つき神話」 |
| | ・アルコール問題のコスト | ・グループ治療(集団精神療法)とは何か | ・化学物質過敏症と中毒、アレルギーとの違い | |
| 164 | ・酪酐しての受診にどう対応するか? | 166 | 176 | ・生活上のワンポイントアドバイス(化学物質過敏症) |
| | ・抗酒剤・抗渴望薬の使用について | ・自助グループに関する最低限の常識 | | |

5章 救急医療

- | | | | | |
|-----|-----------------------------|-----|---|---------------------------------|
| 183 | ・緊急気道確保 | 212 | ・Surviving Sepsis Campaign Guidelines(SSCG) | 題 |
| 184 | ・イメージトレーニングと事後の評価 | 216 | ・重症度スコア(ICU患者) | 241 |
| | ・RRS(rapid response system) | 219 | ・日本版敗血症診療ガイドラインとSSCG 2012との相違 | ・非ミオグロビン尿性急性腎障害(運動後急性腎障害; ALPE) |
| 186 | ・胸骨圧迫のポイント | 227 | ・トライエージDOAの偽陽性・偽陰性 | 247 |
| 187 | ・Mouth-to-mouthと感染 | 230 | ・活性炭の単回投与と繰り返し投与 | ・偶発的低体温症患者における除細動 |
| | ・窒息の場合 | 232 | ・中毒疾患に対する急性血液浄化療法 | 248 |
| | ・Hands only CPR | 234 | ・アルコールをめぐる社会問 | ・偶発的低体温症患者における薬剤投与 |
| 194 | ・迅速導入気管挿管(RSI) | | | ・独歩受診する重篤な疾患例 |
| 200 | ・輸血療法 | | | 250 |
| 202 | ・血行動態モニタリング | | | ・外科的気道確保 |
| 211 | ・アドレナリンの適応 | | | |

6章 オンコロジー

- | | | | | | |
|-----|--|------------|----------------|-----|------------------|
| 270 | ・Oncogenic driver mutation | ・抗 PD-1 抗体 | 者) | | |
| 272 | ・がん幹細胞
・ Intratumoral heterogeneity | 280 | ・樹状細胞療法 | 324 | ・緩和ケアで用いられる放射線療法 |
| 279 | ・抗 CTLA-4 抗体 | 298 | ・リンパ球療法 | | |
| | | | ・高カルシウム血症 (がん患 | | |

7章 多臓器系統にまたがる症候

- | | | | | | |
|-----|--|-----|--------------------------|-----|--|
| 330 | ・ Differential Diagnosis in Primary Care より (発熱) | 357 | ・チルト試験で誘発される血管迷走神経性失神の病型 | 376 | ・めまいの検査 |
| 331 | ・代表的な疾患 (発熱) | | ・食後性低血圧 | 379 | ・めまいの代表疾患 |
| 335 | ・Pitting edema | | ・状況性失神 | 389 | ・痙攣の意味 |
| 336 | ・全身性のリンパ節腫大をきたす疾患 "CHICAGO" | | ・失神による外傷 | | ・てんかん重積状態 |
| 338 | ・エコーによるリンパ節腫大の評価 | 364 | ・多剤併用について (睡眠障害) | 390 | ・抗てんかん薬使用上の注意 |
| 341 | ・CT によるリンパ節腫大の評価 | | ・ブランド化した処方薬: 処方薬依存 | | ・てんかんの外科治療の適応 |
| 342 | ・生検を考慮すべき症例を判別する Z score (改) | 365 | ・ベルソムラ® (スボレキサント) | | ・抗てんかん薬血中濃度 |
| 349 | ・昏睡の解剖学と病態生理 | 372 | ・頭痛の疫学 | | ・薬剤性過敏性症候群 |
| 353 | ・失神の疫学 | | ・頭痛の分類 | | ・てんかんを有する人の運転 |
| | ・失神の原因 | 373 | ・片頭痛 | 405 | ・診察の実際 (感覚障害) |
| 354 | ・失神の病態 | | ・群発頭痛 | 406 | ・神経電気生理検査 |
| 355 | ・反射性失神 (神経調節性失神) | 374 | ・トリプタン製剤の使用法 | 417 | ・5-HT ₂ 受容体拮抗薬 |
| | ・血管迷走神経性失神 | | ・薬物乱用頭痛 | | ・NK ₁ 受容体拮抗薬 |
| | ・起立性低血圧 | | ・クモ膜下出血 | 420 | ・Fitz-Hugh-Curtis 症候群 (クラミジア肝周囲炎) |
| | | 375 | ・特発性低髄圧症候群 | 422 | ・まれな腹痛の原因 |
| | | | | 424 | ・赤血球の life cycle とビリルビン合成, 肝臓への運搬, 胆道系への排泄 |
| | | | | 430 | ・Charcot 関節 |

8章 感染症

- | | | | | | |
|-----|-----------------|-----|-----------------------------------|-----|---------------------------|
| 436 | ・EGDT の有効性について | | ・新たな検査キット | | ・Ziehl-Neelsen 染色 (抗酸菌染色) |
| 437 | ・ALBIOS study | | ・インフルエンザ脳症 | | ・単染色 (メチレンブルー単染色) |
| 438 | ・強化インスリン療法の是非 | 443 | ・ワクチン (インフルエンザ) | | |
| 441 | ・典型的なインフルエンザの特徴 | | ・鳥型インフルエンザ (高病原性鳥型インフルエンザ (HPAI)) | 451 | ・墨汁染色 |
| 442 | ・インフルエンザウイルスの構造 | | ・鳥型インフルエンザ | | ・検体採取 |
| | ・予防投与 (インフルエンザ) | 445 | ・グラム染色の方法 | | ・グラム染色以外の迅速診断法 |
| | ・新たな抗インフルエンザ薬 | 450 | ・グラム染色の染色機序 | 452 | ・血液培養 |

- 453 ・グラム染色における白血球の意義
- 473 ・深在性真菌症の予防
 - ・ β -D-グルカン
- 495 ・HIVの流行状況
 - ・針刺しなど、HIV 陽性血液との接触対策
- 496 ・HIV/AIDSに関わる医療福祉制度
- 507 ・届け出が必要な主な感染症

9章 呼吸器疾患

- 574 ・その他の原因疾患（胸水・胸膜炎）
 - ・気管支炎・肺炎の疫学・病態
- 584 ・肺炎の予測指標
 - ・主な肺炎の起炎菌による特徴
- 585 ・去痰薬
- 599 ・確定診断後の対応
- 603 ・接触者健診
- 605 ・潜在性結核感染症（LTBI）
- 610 ・気管支・肺放線菌症
- 613 ・定義・病態（睡眠時無呼吸症候群）
- 615 ・病因（睡眠時無呼吸症候群）
- 630 ・リモデリングとは
- 632 ・ピークフローとピークフローメーター
- 634 ・ベットが疑わしい場合
- 635 ・吸入ステロイド以外の長期管理薬は必要か？
 - ・何を吸入ステロイドに併用するのが適当か？
 - ・吸入ステロイドの選択のポイントは？
- 641 ・アスピリン喘息（NSAIDs 過敏性喘息）
- 642 ・喘息死について
- 644 ・COPDの身体所見について
- 645 ・オーバーラップ症候群について
 - ・GOLDの分類
- 650 ・呼吸リハビリテーションの実際
 - ・6分間歩行試験
- 655 ・エリスロマイシン少量療法
- 656 ・病態（気管支拡張症）
- 659 ・気管支・肺形成異常（肺がん、先天性気管支閉鎖症など）
- 660 ・Swyer-James 症候群
- 672 ・肺寄生虫症（幼虫移行症）
- 674 ・病因（過敏性肺炎）
- 680 ・肺胞蛋白質
- 682 ・アミロイドーシス
 - ・肺胞微石症
- 683 ・HTLV-1 associated bronchiolo-alveolar disorder (HABA)
- 684 ・IIPsの分類と表記
- 685 ・日本におけるIPFの実態
- 688 ・気腫合併肺線維症（CPEE）
 - ・IIPsの予後予測
- 696 ・疫学（薬剤性肺障害）
- 735 ・病因・病態（サルコイドーシス）

10章 循環器疾患

- 779 ・血圧の測定
 - ・高血圧診療の実際
- 781 ・高血圧の非薬物療法
- 787 ・急性心不全症候群の病態と治療目標
- 788 ・慢性心不全の病態と検査
- 804 ・陽圧呼吸療法（ASV）
- 805 ・CRT-D
 - ・アルドステロンブレイクスルー
 - ・心不全に対するインターバルトレーニング
- 817 ・その他の発作性上室頻拍
- 827 ・アップストリーム治療
- 850 ・待機的血行再建におけるPCIとCABG
- 857 ・心タンポナーデの原因疾患
 - ・心タンポナーデの病態生理
 - ・奇脈（paradoxical pulse）
- 858 ・肝頸静脈逆流（hepatojugular reflux）
 - ・心膜摩擦音（cardiac friction rub）
 - ・大量の心嚢液内での心拍動
- 859 ・心膜穿刺の実際
- 861 ・大動脈弁狭窄症の病態
 - ・大動脈弁狭窄症の成因
- 862 ・大動脈弁置換術（AVR）の推奨（クラス I）
 - ・AVRの手術危険率
 - ・大動脈弁逆流の病態
- 863 ・大動脈弁逆流の成因
- 864 ・手術適応と大動脈弁置換術（AVR）の推奨（クラス I）
 - ・AVRの手術成績
- 866 ・僧帽弁狭窄症の病態

- ・ PTMCの推奨 (クラス I) と手術成績, 遠隔成績
- ・ OMCの推奨 (クラス I) と遠隔成績
- ・ MVRの推奨 (クラス I) と遠隔成績
- 867 ・ 僧帽弁閉鎖不全症の病態
- ・ 僧帽弁手術 (弁置換術と弁形成術) の推奨 (クラス I) と手術成績
- 868 ・ 三尖弁逆流の血行動態
- ・ 三尖弁逆流症の成因
- ・ 二次性三尖弁逆流症の外科的治療指針
- 869 ・ 心筋炎の原因ウイルス
- 874 ・ 心膜炎と虚血性心疾患
- 876 ・ 疣腫の経過
- 878 ・ 感染性心内膜炎の手術適応 (クラス I)
- 879 ・ 概念 (肥大型心筋症)
- 882 ・ 肥大型心筋症と薬物療法
- 883 ・ 概念 (拡張型心筋症)
- 886 ・ 心筋症の定義と分類
- 893 ・ 腹部大動脈瘤の現況
- 895 ・ 胸部大動脈瘤の現況
- 899 ・ 大動脈解離の現況
- 902 ・ 肺梗塞
- 903 ・ 病理 (動脈硬化)
- 912 ・ 閉塞性動脈硬化症の現況
- 914 ・ 硬化療法
- ・ ストリッピング手術
- ・ 高位結紮術
- ・ 血管内レーザー治療, 血管内高周波治療

11章 消化器疾患

- 920 ・ 腹部の触診
- 929 ・ 下痢の概念
- ・ 日常扱う頻度の高い下痢
- ・ 感染性腸炎の特徴と動向
- ・ 腸管出血性大腸菌 (EHEC) への対応
- ・ 海外旅行者の下痢 (旅行者下痢症)
- ・ サイトメガロウイルス (CMV) 腸炎
- 938 ・ イレウス管挿入のポイント
- ・ イレウス管造影
- ・ イレウスをきたす特殊疾患
- 943 ・ 上部消化管出血の予後を悪くする因子
- ・ 凝血塊がたまって出血部位がわからないとき
- 944 ・ 胃洗浄は必要か
- ・ 硬化療法の合併症
- ・ クリップ止血法
- ・ バイポーラー凝固法
- ・ HSE 止血法
- ・ 純エタノール局注法
- 946 ・ GERD の病因
- ・ 胃酸逆流のメカニズム
- ・ 食道の酸クリアランス
- ・ GERD の食道外症候
- 949 ・ 特発性食道破裂との鑑別
- 953 ・ 内視鏡的硬化療法 (EIS)
- ・ 内視鏡的結紮術 (EVL)
- 954 ・ 胃静脈瘤の治療
- ・ EIS と EVL どちらの治療が優れているのか
- ・ 食道・胃静脈瘤治療のエビデンス
- 955 ・ 欧米の治療との比較
- 960 ・ 上皮内伸展と副病巣 (壁内転移と原発性多発巣)
- ・ 診断内視鏡
- ・ intraepithelial neoplasia (上皮内腫瘍) の取り扱いについて
- 961 ・ Barrett 腺癌について
- 967 ・ 消化性潰瘍の疫学
- ・ P-CAB: カリウムイオン競合型アシッドブロッカー
- 969 ・ FD の歴史的経緯
- ・ Rome II, III における FD
- 970 ・ ガイドラインと Rome III
- ・ FD の病態
- 971 ・ GERD および IBS との相違
- ・ *H. pylori* 感染症
- ・ アコチアミド塩酸塩 (アコファイド®)
- ・ FD に有効な漢方薬
- 972 ・ 胃癌の疫学
- ・ 胃癌の内眼分類
- ・ 内視鏡的粘膜下層剝離術 (ESD)
- 974 ・ HER2 陽性進行・再発胃癌に対する化学療法
- ・ ABC 分類
- ・ *Helicobacter pylori* 除菌による発癌予防
- 977 ・ 発症機序 (NSAID 起因性胃腸障害)
- 978 ・ PG 合成酵素: COX について
- ・ 非アスピリン NSAID とアスピリンの関係
- ・ 疫学 (NSAID 起因性胃腸障害)
- ・ HP との関連性
- 984 ・ IBS の病態生理
- ・ IBS の薬物療法 (補足)
- 985 ・ IBS と感染性胃腸炎
- ・ IBS とプライマリケア
- ・ ストレスとは
- 986 ・ IBS の今後
- 988 ・ 診断および治療に注意を要する虫垂炎
- 989 ・ 外鼠径ヘルニア・内鼠径ヘルニア・大腿ヘルニア
- 990 ・ 閉鎖孔ヘルニア
- ・ 臍ヘルニア

- 991 ・「米のとぎ汁様の白色下痢」
 993 ・ORT について
 994 ・主要な病原体 (感染性腸炎)
 1004 ・そのほかの虚血性腸炎
 1008 ・潰瘍性大腸炎と癌
 1010 ・潰瘍性大腸炎の十二指腸病変
 1013 ・潰瘍性大腸炎の病理
 1019 ・ステロイド、5-ASA が炎症性腸病変に効果をもたらすメカニズム
 1022 ・潰瘍性大腸炎と CMV 感染
 1029 ・Crohn 病の病理
 1030 ・オリゴ糖
 1033 ・微量元素欠乏
 1039 ・疫学 (大腸憩室疾患)
 1041 ・adenoma-carcinoma sequence
 ・CT colonography (CTC)
 1042 ・Pit pattern 分類
 ・大腸ポリープ切除後のサーベイランス
 ・sessile serrated adenoma (SSA) からの癌化経路: serrated pathway
 1043 ・改訂バセスダ基準 (2004 年)
 ・注腸バリウム検査
 ・便潜血反応
 ・PET 検査
 1044 ・大腸癌の組織発生機序
 1045 ・大腸癌と遺伝子異常
 1055 ・肛門の解剖・機能
 1069 ・脾腫と肝障害
 1070 ・肝生検の適応
 ・肝細胞以外の肝臓臓構成細胞
 1071 ・ALT と LDH の比
 ・肝炎ウイルス以外のウイルスによる肝障害
 ・ヒアルロン酸
 ・体質性黄疸
 1073 ・透析と C 型慢性肝炎
 ・bacterial translocation (BT)
 ・妊娠、女性ホルモンと肝障
- 害
 1075 ・トランスアミナーゼの呼称
 ・各検査値の施設基準・性差
 ・問診 (薬物性肝障害を見落とさない)
 ・遺伝性肝疾患
 1079 ・各急性ウイルス性肝炎の特徴
 1081 ・凝固因子の臨床的重要性
 ・急性ウイルス性肝炎の鑑別疾患
 1094 ・急性肝不全、類縁疾患の概念整理
 ・B 型肝炎再活性化—*de novo* B 型肝炎対策を含めて
 ・B 型キャリア重症化例の肝不全防止目的の抗ウイルス療法
 1095 ・血液濾過透析療法 (HDF) CHDF, high flow CHDF, on line HDF を含めて
 1103 ・B 型肝炎の疫学
 1104 ・B 型慢性肝炎のウイルス学的諸事実
 1105 ・B 型肝炎の父子感染
 ・B 型肝炎ウイルスの遺伝子型
 1106 ・B 型肝炎新規治療薬の展望
 1112 ・C 型慢性肝炎の疫学
 ・慢性肝炎の劇症化
 ・慢性肝炎の生検組織所見の診断基準
 1113 ・C 型慢性肝炎の抗ウイルス療法
 1118 ・トランスアミナーゼ, AFP 低値の意義と主な肝庇護剤
 1120 ・慢性肝炎患者に安静は必要か
 ・HCV キャリアの自然経過
 ・HCV 抗体陽性者の感染
 ・輸血以外の HCV 感染ルート
 ・HCV ワクチン開発の展望
 1121 ・DAAs 治療の問題点は耐性ウイルスの存在
 1126 ・代謝性特異体質
- ・投与開始日からの日数と発現頻度 (薬物性肝障害)
 1127 ・投与開始日からの日数と ALT 値 (薬物性肝障害)
 ・副作用被害救済制度
 1128 ・E 型肝炎
 ・薬剤性過敏症症候群 (DIHS)
 ・重症型の定義 (薬物性肝障害)
 1132 ・重症型アルコール性肝炎の診断
 ・アルコール性肝障害, とりわけアルコール性肝炎のメカニズム
 1134 ・重症型アルコール性肝炎の治療
 1138 ・NASH の疫学
 ・NASH における非侵襲的スコアリング
 1139 ・two-hit theory と multiple parallel hits hypothesis
 ・酸化ストレス
 ・インスリン抵抗性
 1140 ・レプチン
 ・アディポネクチン
 ・TNF α
 1141 ・NASH における肝生検の位置づけ
 ・Fibroscan[®]
 ・burned-out NASH
 ・肝臓における脂質代謝
 1142 ・HMG-CoA 還元酵素阻害薬
 1143 ・PPAR
 ・薬物誘発性 NAFLD/NASH
 ・タモキシフェン
 ・PNPLA3 遺伝子 SNP
 ・特殊な状況での NASH
 1144 ・その他 (NAFLD/NASH)
 1150 ・自己免疫性肝炎の診断 (診療ガイドラインを含む)
 ・急性発症型自己免疫性肝炎
 1151 ・自己免疫性肝炎の寛解維持療法
 ・AIH のオーバーラップ症候群

- 1156・ミトコンドリア抗体の意義—早期 PBC, AMA 陰性 PBC 自己免疫性胆管炎の疾患独立性を含めて
- 1157・ウルソデオキシコール酸 (UDCA) の効果をもたらす機序
・PBC の予後予測
- 1164・原発性硬化性胆管炎 (PSC) の発症要因に関する仮説
・PSC の病理組織像
・PSC に対する UDCA 投与
- 1178・肝硬変の疫学
・クモ状血管腫, teleangiectasia, 手掌紅斑の成因
・腹壁静脈怒張のパターンと意義
・羽ばたき振戦の誘導方法と意義
- 1179・肝硬変の体液貯留のメカニズム—肝腎症候群, 特発性細菌性腹膜炎, 肝性胸水を含む
- 1181・難治性腹水の治療法
- 1182・肝硬変原因疾患の鑑別
・ウイルス性肝硬変の自己抗体
- 1183・肝硬変でない鑑別疾患①: 門脈血行異常症
- 1186・肝硬変でない鑑別疾患②: 血液疾患
・肝硬変とインスリン抵抗性
- 1187・肝硬変と過栄養
・門脈圧亢進症と消化管粘膜病変
- 1188・肝性昏睡の誘発因子
・肝硬変の栄養状態の特徴—蛋白・エネルギー低栄養状態
・肝硬変患者の肝移植
- 1210・混合型肝癌・嚢胞腺癌の新分類—肝幹細胞, 癌幹細胞の概念との関連
- 1212・胆管上皮内腫瘍性病変と肝粘液嚢胞性腫瘍の定義
- 1213・有機溶剤による職業性胆管癌
・わが国の原発性肝癌における 1930 年代の出生コホート
- 1214・腫瘍随伴症候群 (paraneoplastic syndrome)
・肝細胞癌の腫瘍マーカーの意義
・肝細胞癌の造影エコー
- 1215・肝細胞癌の多段階発癌と結節内血行支配, Kupffer 細胞数の関係
- 1216・肝細胞癌診断における FDG-PET の有用性
- 1217・肝癌の鑑別疾患: 画像診断上の鑑別点
- 1219・肝癌の統合ステージングシステム
・RFA 治療の進歩と課題
- 1220・新たな TACE
- 1222・肝細胞癌に対する肝移植 (ミラノ基準外の肝細胞癌に対する肝移植を含む)
・肝細胞癌の新しい放射線療法
- 1223・Sorafenib 単独時代に終止符?—新たな化学療法剤の動向
- 1226・アメーバ性肝膿瘍: 感染危険因子, 疫学
- 1227・肝膿瘍の横隔膜・胸膜への炎症波及
・肝膿瘍造影は必要か
・アメーバ性肝膿瘍に膿瘍ドレナージは必要か
・肝膿瘍に対する抗菌薬動注療法
- 1230・IgG4 とは
- 1231・その他の IgG4-RD
- 1233・胆道系の区分
・胆管結石症の低侵襲治療法
- 1234・胆石症状の機序
・胆石の超音波検査
・胆道系腫瘍マーカー
- 1235・胆石症の ESWL
・胆石症の開腹術
- 1238・知っておいたほうがよい略語 (急性胆管炎)
- 1239・病態 (急性胆管炎)
- 1240・胆嚢隆起性病変の基本 4 種類
- 1241・胆嚢ポリープのエコー像
・胆嚢ポリープの画像診断における血流診断
- 1243・早期胆嚢癌の US 像
- 1248・胆道癌の発生母地別分類
・胆管癌の内眼分類
・肝門部領域胆管癌
- 1249・乳頭部癌
- 1254・膵局所合併症の改訂アトランタ分類
- 1255・ERCP 後膵炎とその予防策
- 1258・疫学 (慢性膵炎)
- 1259・慢性膵炎治療における基本的な疑問点
・リバクレオン
- 1261・IPMN 診療のパラダイムシフト
- 1263・疫学 (膵臓癌)
・膵癌高リスク群という考え方
- 1264・膵腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診 (EUS-FNA)
・Borderline resectable 膵癌への挑戦
- 1265・根治切除不能膵癌に対する FOLFIRINOX 療法

12章 腎疾患・電解質異常

- | | | |
|---|---|---|
| <p>1269 ・その他の血尿の原因</p> <p>1271 ・selectivity index
・微量アルブミン尿</p> <p>1274 ・臨床上最もよくみられる乏尿・無尿
・乏尿期における透析療法の適応
・パソプレシン測定について</p> <p>1277 ・尿細管間質性腎炎</p> <p>1278 ・造影剤による腎機能障害（造影剤腎症：RCIN）
・横紋筋融解症
・肝腎症候群
・腫瘍崩壊症候群
・ガドリニウム造影剤による腎機能との関連</p> <p>1279 ・コレステロール塞栓症
・IgG4 関連疾患
・心腎症候群（CRS）</p> <p>1281 ・低補体血症</p> <p>1282 ・腎生検の適応</p> | <p>・腎生検前評価
・腎生検の手順
・腎生検の合併症
・腎生検結果</p> <p>1284 ・溶連菌感染後急性腎炎とNAP1r</p> <p>1286 ・ANCA 陽性急速進行性腎炎症候群の治療方針</p> <p>1288 ・IgA 腎症と妊娠</p> <p>1291 ・ネフローズ症候群の合併症</p> <p>1292 ・巣状糸球体硬化症（FSGS）
・膜性増殖性腎炎（MPGN）
・ネフローズ症候群で用いられる免疫抑制剤</p> <p>1295 ・遺伝性腎疾患</p> <p>1301 ・血液透析と比べたときの腹膜透析（CAPD）の利点
・血液透析と比べたときの腹膜透析（CAPD）の欠点
・腎移植</p> <p>1305 ・血液浄化療法の種類</p> | <p>・バスキュラーアクセスの確保
・慢性透析患者の緊急透析</p> <p>1306 ・不均衡症候群</p> <p>1307 ・酸塩基平衡
・動脈血液ガス分析
・静脈血液ガス分析</p> <p>1311 ・Na と水調節系</p> <p>1312 ・Osmolal gap
・SIADH の診断治療と鑑別（CSWS と MRHE）</p> <p>1314 ・高カリウム血症の原因</p> <p>1316 ・低カリウム血症の原因</p> <p>1318 ・高カルシウム血症をきたす疾患</p> <p>1319 ・低カルシウム血症をきたす疾患</p> <p>1320 ・CKD-MBD
・FGF23 (fibroblast growth factor 23)</p> <p>1321 ・refeeding syndrome</p> |
|---|---|---|

13章 代謝・内分泌疾患

- | | | |
|---|--|---|
| <p>1330 ・食品交換表第7版の炭水化物比率
・糖尿病と糖質制限食</p> <p>1336 ・インスリン製剤の作用時間による分類
・強化インスリン療法</p> <p>1337 ・インスリンポンプ療法</p> <p>1338 ・糖尿病の成因分類
・1型糖尿病
・緩徐進行1型糖尿病
・劇症1型糖尿病</p> <p>1339 ・劇症1型糖尿病診断基準（2012）
・インスリン抵抗性の指標</p> <p>1340 ・境界型
・食前血糖か食後血糖か
・自己血糖測定（SMBG）</p> | <p>・妊娠と糖尿病</p> <p>1341 ・糖尿病と歯周病
・糖尿病と骨粗鬆症
・糖尿病と癌</p> <p>1345 ・ヨード造影剤と糖尿病</p> <p>1346 ・NSAIDs と糖尿病腎症
・日本人のGFR推算式（eGFR）</p> <p>1349 ・糖尿病足病変の原因
・チーム医療の重要性</p> <p>1355 ・日本人肥満者の特徴
・肥満症の手術療法
・歯磨きの勧め
・サノレックス® について
・オブリーン® について</p> <p>1359 ・脂質異常症治療薬剤</p> <p>1360 ・横紋筋融解症</p> | <p>・家族性高脂血症（FH）</p> <p>1364 ・高尿酸血症・痛風の概念</p> <p>1365 ・高尿酸血症の分類</p> <p>1371 ・TSH 受容体抗体（TRAb）</p> <p>1372 ・無痛性甲状腺炎（painless thyroiditis）
・亜急性甲状腺炎（subacute thyroiditis）</p> <p>1373 ・甲状腺クリーゼ</p> <p>1374 ・抗甲状腺薬による無顆粒球症
・Basedow 病に伴う周期性四肢麻痺</p> <p>1376 ・抗サイログロブリン抗体とサイロイドテストの違い</p> <p>1378 ・乳頭癌
・濾胞癌</p> |
|---|--|---|

- ・髄様癌
- ・未分化癌
- ・悪性リンパ腫
- ・原発事故と甲状腺癌
- 1380・急性副腎不全症の原因となる慢性副腎機能低下を起こす病態
- 1381・各ホルモンの pitfall
- ・慢性副腎機能低下症の精密検査
- ・下垂体前葉機能低下症 (hypopituitarism)
- 1382・下垂体腫瘍 (sellar mass, pituitary tumors)
- 1385・デメクロサイクリン (レダマイシン®)による SIADH 治療

14 章 神経・筋疾患

- 1401・髄膜刺激徴候とは
 - ・髄液検査と脳ヘルニア
 - ・髄膜炎の疫学
- 1402・細菌性髄膜炎の予後と後遺症
 - ・髄膜炎の病態
 - ・ウイルス性髄膜炎の原因
 - ・Mollaret 髄膜炎
 - ・薬剤性髄膜炎
 - ・結核性髄膜炎
- 1403・クリプトコッカス髄膜炎
- 1408・Gerstmann-Sträussler-Scheinker 症候群 (GSS)
 - ・致死性家族性不眠症 (FFI)
 - ・プリオン病感染対策
- 1416・パーキンソン病の疫学と予後
 - ・非運動症状に対する治療
 - ・麦角系ドパミンアゴニスト使用時の注意
- 1417・Wearing off とその対策
- 1418・ジスキネジアの対策
 - ・パーキンソン病の手術療法
 - ・パーキンソン病療養ノート
 - ・パーキンソン病の治療中にみられる悪性症候群
- 1419・パーキンソン病患者の支援
 - ・パーキンソン病体操
 - ・家族性パーキンソン病
- 1425・遺伝性脊髄小脳変性症
- 1426・球脊髄性筋萎縮症 (SBMA, Kennedy-Alter-Sung 症候群)
- 1427・脊髄性筋萎縮症 (spinal muscular atrophy)
 - ・平山病 (若年性一側上肢筋萎縮症)
 - ・認知症を伴う ALS
- 1431・多巣性運動ニューロパチー (MMN)
- 1446・神経筋伝達障害をきたしうる薬物
- 1464・糖尿病性ニューロパチー
- 1469・頭部外傷の分類
 - ・脳に影響を与える損傷に対する対応
- 1471・外傷性てんかん (PTE)
- 1476・脳血管障害の各病型の特徴
- 1479・7 series の見方
 - ・extinction test
- 1481・CT の mass effect 所見
 - ・脳出血の CT 所見の経時的变化
- 1483・無症候性脳虚血
 - ・early CT signs
 - ・脳室拡大：脳萎縮か水頭症か
- 1484・CT で左右差を認めたら
 - ・脳の支配動脈・血流分布
- 1486・MRI の撮像原理
 - ・MRA におけるアーチファクト
- 1488・慢性期における脳血管障害に対する手術療法
 - ・急性期脳梗塞に対するアスピリン
 - ・rt-PA (アルテプラゼ)
- 1489・ウロキナーゼ
 - ・血栓溶解をめぐる議論
 - ・penumbra
- 1490・ヘパリン
 - ・Hemodilution 療法
 - ・超急性期脳塞栓の血栓溶解療法
 - ・グリセロールも長期予後改善のエビデンスは乏しい
- 1491・脳血管障害に対するステロイド
 - ・脳血管拡張薬をめぐる論議
 - ・人工呼吸器装着には家族の同意を
- 1492・血圧対策 (脳血管障害)
 - ・脳循環自動調節能
 - ・脳卒中病棟 (SU) の治療効果
- 1493・積極的な降圧が脳卒中二次予防に有効
 - ・急激な降圧に注意
 - ・危険因子としての糖尿病
- 1494・アスピリンの再発予防効果
- 1496・痙攣部分発作では治療のしすぎに注意
- 1497・リハビリテーションは早期から
 - ・リハビリテーション科へのコンサルテーションの必要性
- 1500・段階的嚥下訓練のリスク
- 1504・D-マンニトール
- 1507・神経膠腫の予後
- 1513・小脳転移
 - ・脳転移

15章 血液疾患

- | | | |
|---|---|---|
| <p>1521・自動血球測定機器の結果評価での注意事項
・貧血とHbA1cとの関係</p> <p>1522・平均赤血球容積(MCV)の評価時の注意事項</p> <p>1523・鉄剤内服時のポイント
・鉄剤静注時のポイント</p> <p>1524・鉄代謝に関して
・鉄過剰症(HC)</p> <p>1531・Coombs陰性自己免疫性溶血性貧血
・先天性溶血性貧血(酵素異</p> | <p>常症・膜異常症)の検査診断
・異常ヘモグロビン症の検査
・Mentzer Index</p> <p>1533・巨赤芽球とは?</p> <p>1533・ビタミンB₁₂の吸収過程と欠乏症</p> <p>1536・肝疾患に伴う貧血
・内分泌疾患に伴う貧血</p> <p>1542・高齢者(再生不良性貧血)</p> <p>1543・妊娠(再生不良性貧血)
・染色体異常(再生不良性貧</p> | <p>血)</p> <p>1569・治療効果判定(骨髄異形成症候群)</p> <p>1575・分子標的治療薬(骨髄線維症)</p> <p>1580・治療効果のモニタリング(慢性骨髄性白血病)</p> <p>1583・フルダラビン療法</p> <p>1609・ITPの治療プロトコール</p> <p>1615・SLE治療中の注意</p> |
|---|---|---|

16章 膠原病とその類縁疾患

- | | | |
|---|---|--|
| <p>1636・診断基準(膠原病)
・注意すべき発熱
・自然免疫と獲得免疫について</p> <p>1637・国の難病行政について</p> <p>1646・その他関連トピック(関節リウマチ)</p> <p>1656・抗リン脂質抗体症候群(APS)</p> <p>1657・免疫抑制剤の使用
・Steroid</p> <p>1658・ステロイドの副作用</p> <p>1660・SLEの難治性病態</p> <p>1662・病因について(全身性強皮</p> | <p>症)
・強皮症(Scleroderma)</p> <p>1663・CREST症候群</p> <p>1665・重複症候群・オーバーラップ症候群</p> <p>1668・病因(多発性筋炎/皮膚筋炎)
・皮膚筋炎/多発性筋炎の最新トピック</p> <p>1669・抗MDA5抗体+多発性筋炎/皮膚筋炎と間質性肺炎について
・封入体性筋炎(inclusion body myositis)</p> | <p>1672・病因(シェーグレン症候群)
・診断に必要な検査と手順
・SSの分類と患者数</p> <p>1673・新生児の房室ブロック</p> <p>1676・血管炎の疾患概念と定義</p> <p>1681・小血管炎の新分類
・ANCAの臨床的意義</p> <p>1682・新規代替療法について(ANCA関連血管炎)</p> <p>1686・ベーチェット病</p> <p>1688・滑液包
・RS3PE</p> |
|---|---|--|

17章 精神・心療内科疾患

- | | | |
|---|---|---|
| <p>1696・ノンレム睡眠とレム睡眠</p> <p>1697・睡眠・覚醒のリズムとその年齢変化
・主な超短時間型・短時間型睡眠薬における一過性前向き健忘の出現頻度</p> <p>1701・せん妄の病態仮説</p> | <p>・せん妄の治療薬</p> <p>1708・認知症から「神経認知障害」(DSM-5)へ?
・各種評価スケールについて
・軽度認知障害(MCI)
・レビー小体型認知症</p> <p>1713・自殺念慮の聞き取り方とそ</p> | <p>の対処
・認知療法・対人関係療法</p> <p>1714・最近のうつ病診療におけるドグマチールの位置づけ
・うつ状態とうつ病</p> <p>1718・Wernicke脳症</p> <p>1725・心身症の病態</p> |
|---|---|---|

- ・病態背景（心身症）
- ・アレキシサイミアとアレキシソミア
- 1726・タイプ A 行動パターン仮説
- ・心身症と神経症の鑑別
- ・心身症の周辺疾患
- ・心身医学的諸検査
- 1727・一般心理療法と医師の姿勢
- ・心身医学領域によく用いられる治療法
- 1732・病因論の概要（パニック障害）
- ・広場恐怖（agoraphobia）
- ・社会的認知の功罪
- 1736・患者対応のコツ（身体表現性障害）
- 1742・ICD-10
- ・DSM-5
- ・精神保健福祉法（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律）
- ・第 1 世代抗精神病薬
- 1743・第 2 世代抗精神病薬
- 1746・複雑な意識障害
- ・通過症候群（Durchgangssyndrome）
- ・症例：George Gershwin
- 1752・発達障害の心理検査
- ・「ふつう」であることの厳しさ
- 1756・摂食障害の病因
- ・パーソナリティによる分類の試み
- 1757・治療スタンス（摂食障害）
- ・転帰（摂食障害）
- 1759・統合失調症との鑑別（薬物依存症）
- 1761・CRAFT
- 1762・薬物依存症者との関わり方
- ・患者を通報するか否か（薬物依存症）

18 章 運動器疾患

- 1766・骨折治癒の年齢的要因
- 1767・持続牽引に際しての注意点
- ・キャスト固定に際しての注意点
- 1771・肩関節脱臼の徒手整復術
- ・肘内障
- 1776・歩いて来院する大腿骨頸部骨折
- ・大腿骨頸部/転子部骨折の観血的治療
- 1783・頸椎症性脊髄症の手術治療
- ・myelopathy hand
- 1786・インピンジメント症候群
- ・腱板断裂の手術治療
- 1787・Loose shoulder
- 1789・肘部管症候群の手術治療
- 1790・手根管症候群の手術治療
- 1791・Dupuytren 拘縮の手術治療
- 1798・腰痛治療におけるエビデンス
- 1800・自然に消滅する椎間板ヘルニア
- ・腰椎椎間板ヘルニアの外科的治療
- 1801・腰部脊柱管狭窄症の手術療法
- 1802・脊椎圧迫骨折後遅発性麻痺
- ・経皮的椎体形成術
- 1803・転移性脊椎腫瘍の手術治療
- 1804・発育性股関節形成不全
- 1807・股関節 OA の手術的治療
- 1808・人工股関節全置換術とは
- ・人工股関節全置換術後の問題点
- 1811・膝関節 OA の Xp 所見
- ・膝関節穿刺および膝関節内注射
- 1812・膝関節 OA とサプリメント
- 1813・膝関節 OA の手術的治療

19 章 小児疾患

- 1828・重症患児の見分け方
- ・小児のハイリスク・グループ
- ・乳幼児突然死症候群（SIDS）
- 1830・発熱の機序と原因
- 1841・病原性大腸菌 O-157 とは
- ・出血性大腸炎
- 1842・VT の作用機序
- ・溶血性尿毒症症候群（HUS）
- 1843・嘔吐の鑑別疾患
- 1849・Delayed repeat enema
- 1850・重症度に基づく移送基準（腸重積症）
- 1853・咳と喘鳴の定義
- 1856・扁桃摘出の適応
- 1862・各種肺炎の特徴
- 1865・修飾麻疹（麻疹の特殊型）
- 1866・先天性風疹症候群（CRS）
- 1867・妊婦への感染（水痘）
- 1868・ワクチンの 2 回接種について（流行性耳下腺炎）
- ・小児の反復性耳下腺炎
- 1869・妊婦への影響・対応（伝染性紅斑）

- 1871・HHV-6 初感染時合併症・予後
 1873・爪への影響（手足口病）
 ・慢性活動性 EBV 感染症
 1876・急性糸球体腎炎やリウマチ熱の 2 次的発症
 1877・Brudzinski 徴候
 ・Moro 反射
 ・Kernig 徴候
 1878・化膿性髄膜炎の病態
 ・トリプトファン反応
 1879・無菌性髄膜炎の病態
 ・急性脳炎・急性脳症とは？
 1881・急性脳炎・急性脳症を疑う症状
 1885・発作の種類と抗てんかん薬の適応
 1887・てんかん症候群分類について
 1890・偽陰性（蟻虫症）
 1898・インプロテレノール持続吸入療法
 1903・アトピー性皮膚炎の有症率
 ・出生時からの予防（アトピー性皮膚炎）
 ・タクロリムス軟膏の使用法
 1911・アドレナリン自己注射薬（エビベン®）
 ・経口免疫療法
 1918・小児での運動負荷心電図
 1921・学校検尿のシステム
 1925・複雑性尿路感染症
 ・急性出血性膀胱炎
 ・水腎症
 ・逆流性腎症
 1927・Nutcracker 現象
 1929・疫学・病因病態（アレルギー性紫斑病）
 ・受診のきっかけ（アレルギー性紫斑病）
 1931・起立性調節障害の病態
 1936・虐待と鑑別すべき疾患
 ・通告者の保護
 1937・代理ミュンヒハウゼン症候群（MSBP）
 ・児童虐待の未然防止
 1943・同時接種について

20章 女性疾患

- 1947・妊娠反応
 ・女性科疾患と MRI
 ・ホルモン療法
 ・高齢者の性
 1949・エコフリースペース
 ・骨盤内炎症性疾患（PID）
 ・異所性妊娠（子宮外妊娠）
 1950・卵巣嚢腫の捻捻転に関連して
 1951・内分泌異常と月経異常
 ・薬剤と高プロラクチン血症
 ・思春期の不正出血
 1956・思春期外来
 ・（機能性）月経困難症
 ・機能性子宮出血
 1958・更年期障害の評価
 1960・高齢者における帯下
 1963・子宮内膜症の進行期分類
 ・内膜症における月経困難症
 ・若年者の月経困難症
 1964・不妊症と子宮内膜症
 ・子宮内膜症のホルモン療法
 ・手術療法（子宮内膜症）
 ・チョコレート嚢胞と卵巣癌
 1967・子宮筋腫
 ・超音波での子宮の所見のとり方
 ・最近の検査法（子宮筋腫）
 ・治療（子宮筋腫）
 1968・産婦人科での一般的な子宮全摘後の指導
 ・子宮全摘の心理的影響・性交
 ・手術後のホルモン療法
 1972・子宮頸癌と HPV
 ・CIN の概念
 ・子宮頸部腺癌
 ・進行頸癌における NAC
 1973・子宮内膜増殖症
 ・子宮体癌のホルモン療法
 ・癌検診
 ・子宮頸癌検診の自己採取法
 1976・卵巣癌の進行期分類
 ・組織分類（卵巣腫瘍）
 ・良性卵巣嚢腫の治療法
 ・卵巣癌の治療指針
 ・卵巣癌の予後
 ・腫瘍マーカーと卵巣腫瘍
 1978・術後化学療法と卵巣機能・妊娠能
 1983・緊急避妊法
 1984・10代の妊娠と人工妊娠中絶の疫学
 1986・妊娠とウイルス・原虫疾患
 1987・妊娠と MRI
 1987・前期破水（PROM）
 ・早産児の予後
 ・習慣性流産（不育症）
 1993・母乳
 1996・乳癌の疫学
 ・代表的な検査（乳癌）
 ・乳癌の治療
 2000・転移・再発（乳癌）
 2001・特殊な問題（乳癌）
 ・かかりつけ医としての役割分担
 ・乳がん検診について
 ・参考となる Web サイト（乳癌）

21 章 泌尿器疾患

- | | | |
|-------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|
| <p>2005・排尿障害
・排尿障害の検査</p> | <p>2007・病 態（前立腺肥大症）
2016・ESWL</p> | <p>2033・処方にあたり注意点（勃起不全）</p> |
|-------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|

22 章 眼疾患

- | | | |
|--|--|--|
| <p>2041・病棟ととくに注意を要する眼科疾患
2049・近視の成因
2050・屈折矯正手術
2055・結膜炎の学校内感染
2056・ヘルペスウイルスによる眼感染症
2058・眼圧上昇に関与する因子
・眼圧上昇で眼に生じる変化</p> | <p>2059・緑内障の疫学（2000～2001年多治見スタディ）
・緑内障の視野検査
2060・先天緑内障
2061・白内障手術
2064・高血圧症における眼底の変化
・そのほか高血圧性網膜症に関連する病態</p> | <p>2065・ぶどう膜炎の病因
2066・ぶどう膜炎の分類
・ぶどう膜炎の疫学
2070・眼底検査時のコツ（一般内科医のための）
2071・非薬物療法（糖尿病網膜症）
2072・糖尿病と眼合併症</p> |
|--|--|--|

23 章 耳鼻咽喉疾患

- | | | |
|---|--|--|
| <p>2078・概念・疫学（鼻出血）
・病態（鼻出血）
2082・急性化膿性中耳炎
・注意が必要な中耳炎（周辺への炎症の波及）</p> | <p>・その他の耳痛を起こす中耳疾患
・外耳疾患
2084・代表的な急性難聴
2087・食道に異物があるか否か不</p> | <p>明のとき
2094・顔面神経の解剖
2097・概念と疫学（Bell 麻痺）
・原因（Bell 麻痺）
2098・薬物療法（Bell 麻痺）</p> |
|---|--|--|

24 章 皮膚・軟部組織疾患

- | | | |
|--|---|---|
| <p>2106・皮膚の病態所見について
2108・原発疹と続発疹の解説
2109・湿疹と皮膚炎について
・湿疹の原因
2110・掻破と湿疹の関係
2111・生活指導
・アトピー性皮膚炎はなぜ治らないか
2112・医原性接触皮膚炎の原因
・手湿疹とアトピー性皮膚炎の関係
2113・汗疱について</p> | <p>・手湿疹の生活指導
2114・紅斑について
2115・紫斑について
2116・蕁麻疹の原因
2118・水疱について
2119・膿疱について
・皮膚の細菌感染症について
2120・細菌直接鏡検法（グラム染色法）
2121・白癬はなぜ誤診されるか
2122・KOH 法の手順
2124・ヘルペス性疾患について</p> | <p>・ヘルペス性疾患の検査
2126・マダニは感染症の宝庫
2127・頭髮の基礎知識
・脱毛を訴える患者をみたら
2128・爪の基礎知識
2130・悪性を示唆する所見について（皮膚腫瘍）
2131・中毒疹について
2143・スキンステッパーの利用について
・創傷の局所治療
2144・局所の清浄化</p> |
|--|---|---|

- ・ドレッシング(創傷の被覆)について
- 2145 ・各種創傷被覆材について
- 2146 ・外用薬について
- 2147 ・創傷被覆材・外用薬の使い分けについて
- ・その他の創傷治療法
- 2155 ・熱傷治療におけるゲーベンクリームの使用
- 2164 ・褥瘡危険要因点数表(OHスケール)
- ・OHスケール各項目に関し
- て
- 2165 ・ブレードスケール(Braden scale)
- ・ハードウェア整備の重要性

25章 薬物使用法

- 2172 ・ダウン・レギュレーション
- 2173 ・カテコラミン使用時の留意点
- 2177 ・抗菌薬のアレルギー歴
 - ・抗菌薬のアレルギー反応
 - ・ペニシリン系抗菌薬のアレルギー反応
 - ・妊婦、授乳中の患者における抗菌薬の選択
- 2178 ・肝不全における抗菌薬使用の注意点
 - ・抗菌薬と他の薬剤との相互作用
- 2179 ・抗菌薬の値段
 - ・抗菌薬の一般名と商品名
- 2182 ・主な病原微生物の性質
- 2184 ・抗菌薬の耐性菌
- 2195 ・ワルファリン使用時の凝固能検査の変化の特徴
- 2197 ・妊婦へのワルファリン投与時の注意事項
 - ・ワルファリンの薬物相互作用
- 2198 ・PT (INR) と TT との関係
 - ・NOAC 投与時の検査法
- 2205 ・ステロイドの吸収について
- 2207 ・ステロイド皮膚症
- 2208 ・内服時の工夫 (小児)
 - ・ドラッグデリバリーシステム (DDS)
- 2210 ・内服処方箋の書き方
- 2211 ・小児での適用外使用
 - ・バイオアベイラビリティ
 - ・多剤使用の場合の注意点
- 2214 ・オーストラリア医薬品評価委員会
 - ・虎ノ門病院での基準 (妊娠中の薬)
- ・厚生労働省 (添付文書について)
- ・NSAIDs
- 2222 ・薬剤師の母乳移行とその危険度
 - ・母乳分泌を中止するために
- 2226 ・治療薬物モニタリング (TDM)
- 2244 ・TEN (中毒性表皮壊死剝離症)
 - ・DIHS (drug-induced hypersensitivity syndrome)
- 2245 ・GVHD (移植片対宿主病)
- 2246 ・TEN でのステロイド全身使用の賛否
 - ・薬疹の各種試験法の解説
- 2248 ・遺伝子マーカーの解説

26章 検査

- 2253 ・左室流入速波形
- 2254 ・心筋虚血の徴候と出現順序
 - ・壁運動異常評価
 - ・壁厚変化
 - ・壁エコー輝度の評価
- 2269 ・ドブラ法エコー
 - ・ドブラ法の原理
- 2270 ・Tissue harmonic imaging
- 2272 ・肝 SOL の診断における超音波検査の優位性
- 2273 ・肝 SOL の超音波診断上の注意点
 - ・肝悪性腫瘍診断における超音波のサイン
- ・急性膵炎の超音波診断
- 2274 ・消化管における超音波検査の有用性
- 2275 ・急性腹症の超音波検査
- 2276 ・冠動脈造影検査の適応